

2021年7月25日(日)

日本キリスト教団 **久宝教会**

第64巻第17号(通算3245号)

教会設立 1959年6月14日

〒581-0072

大阪府八尾市久宝寺6丁目7-10

TEL 072-992-2131 FAX 072-992-2135

郵便振替: 00980-5-212130 「日本基督教団久宝教会」

【集会案内】こどもの礼拝: 毎日曜 10:15-10:30 何かお悩みがありましたらご遠慮なくご相談ください
主日礼拝: 毎日曜 10:30-11:30 小さい子どもたちも、いつでも歓迎いたします。

しゅうほう

週報

教会標語

かみさま **神様がすべての人と共に**おられる
ことを証ししていく **教会**



ホームページ「久宝教会」
(ウェブサイト)

<http://www.koinonia.or.jp/kyuhokyokai>
【連絡先(牛田)】090-9161-4027

kyuho-church@koinonia.or.jp

この希望が失望に終わることはありません。私たちに与えられた聖霊によって、
神の愛が私たちの心に注がれているからです。(ローマの信徒への手紙5:5)

聖霊降臨節 第10主日

《礼拝はインターネットで中継配信いたします。ホームページにてどなたでも
ご視聴いただけますので、それぞれの場所で共に礼拝をしていただけます》

前奏 (黙 禱) AVE VERUM CORPUS (©著作権消滅)

招きの詞 詩編 107編 1節

賛美歌 21-448番 「お招きに応えました」 (©JASRAC)

聖書 マタイによる福音書 9章 9-13節

お祈り
賛美歌 21-486番 「飢えている人と」 (©JASRAC)

メッセージ 「平和をつくるために」 牛田 匡 牧師

賛美歌 「平和の出発点」 (©塩田 泉)

主の祈り 21-62番 「天にいます 私たちの父」 (©教団讃美歌改訂委員会)

献げ物 (*)

誕生者祝福式 (**)

派遣 21-91番 「神の恵みゆたかに受け」 (1節のみ) (©JASRAC)

祝福 牛田 匡 牧師

後奏 アーメン コーラス (21-40-6番) (©著作権消滅)

報告 (4頁をご参照ください)

《お隣と間隔をあけて、席にお座りになったままで礼拝にご参加ください》

* 「献げ物 (献金)」は参加費ではございません。

受付に献金箱がございます。ご用意のある方のみ、お献げください。

** みんなで今年度7月までにお生まれの方をお祝いいいたします。

ご遠慮なさらず、どなたでもお申し出ください。

¹「主に感謝せよ。

まことに、主は恵み深い。

その ^{いづく}慈しみはとこしえに。」

聖書 マタイによる福音書 9 章 9-13 節 (聖書協会共同訳©日本聖書協会)

⁹ イエスは、そこから進んで行き、マタイと言う人が収税所に座っているのを見て、「私に従いなさい」と言われた。彼は立ち上がってイエスに従った。

¹⁰ イエスが家で食事の席に着いておられたときのことである。そこに、^{ちようぜいにん}徴税人や ^{つみびと}罪人が大勢来て、イエスや弟子たちと同席していた。¹¹ ファリサイ派の人々はこれを見て、弟子たちに、「なぜ、あなたがたの先生は徴税人や罪人と一緒に食事をするのか」と言った。¹² イエスはこれを聞いて言われた。「医者が必要とするのは、丈夫な人ではなく病人である。¹³ 『私が求めるのは 慈しみ であって、いけにえではない』とはどういう意味か、行って学びなさい。私が来たのは、正しい人を招くためではなく、罪人を招くためである。」

(脚注 a : 別訳「憐れみ」)



《先週の礼拝より》7月18日 聖霊降臨節第9主日礼拝

メッセージ「ミカル、怒る」より

岡嶋千宙伝道師

聖書：サムエル記 下 6章 16, 20-23節

「サウルの娘」であり「ダビデの妻」であるミカル。その呼び名から分かる通り、ミカルはいずれも王である二人の男性に翻弄された人生を送ります。だからといって、主体性を持たない女性であったわけではありません。父サウル亡き後、着々と権力を手中に収め王として台頭していく夫ダビデを、ミカルは「心の底から嫌」い（サムエル下6：16）い、「今日のイスラエルの王はなんと栄光にみちていたことでしょう」（6：20）と皮肉を込めて批難します。明確な理由は記されていませんが、その言葉を発した後、ミカルは「死の日まで子どもを持たなかった」（6：23）とされています。あるいは、正面切って批判の言葉を向ける妻に愛想を尽かしたダビデが、ミカルから遠ざかったからかもしれません。ですが、「子どもができない」のではなく、「子どもを持たない」と言われてといることからすると、ミカルは、自ら望んでその選択をしたのだと考えられます。当時、子どもがいないことは、共同体から疎外され得る要因となるものだったのに、あえてミカルが「子どもを持たない」ことを選んだのだとしたら。

社会が大きく変化していく中で作り上げられていく流れ、多数の、あるいは有力な者たちが求める王制というあり方自体に対しての抗い。さらに、王制の精神的／霊的支えであり、社会の中心で社会の形をつくり出していた男性たちの思い描いていた「神／主ヤハウエ」という存在に対しての反発。ミカルは、抗い、声を上げたのです。自分自身を含めた女性たちを王制にまつわる政治的駆け引きに巻き込み、一人の人間としての存在を忘れさせるあり方を否定したのです。社会の中心にいた男性たちが描く物語を退け、自分たちの思いとは別のところで人を縛りつける「神」という枠を振り払ったのです。

まるで、ミカルの思いを汲み取ったかのように、ミカルが生きた時代から約1000年後、一定の属性を持つ人たちによって担がれ、大きな場にでんと座る神ではなく、一人ひとりのそばで、共にいてくれる神を説き示す人物が表れます。一人の女性を「誰かの娘」、「誰かの妻」と呼ぶのではなく、その人自身の名前と呼んだイエス。主イエスに倣い、わたしたち一人ひとりが、耳を澄まして、隣人の声を聴いて、共に抗い、声を上げていくことができるように。

毎週の「メッセージより」は、ウェブサイト等にも順次掲載されています。

ホームページ



Facebook



LINE 公式アカウント



◎ 先週の報告 (7月18日)

礼拝出席 大人5名 (中継動画再生数12回) 献金 4,000円 感謝

◎次週 2021年8月1日(日) 平和聖日(聖霊降臨節第11主日) 礼拝

招きの詞 マタイによる福音書 5章 9節

聖書 使徒言行録 9章 26-31節

メッセージ「慰めの人」水谷憲牧師

賛美歌 210番(©P.D.)、561番(©P.D.)、
499番(©JASRAC)、524番(©P.D.)

礼拝はインターネットで中継配信いたします。



◎お知らせ

- ・本日の礼拝後に、釜ヶ崎支援のための「おにぎり作り」を行い、いこい食堂にお届けいたします。どなたでもご参加ください。
- ・新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、大阪府には「まん延防止等重点措置」が取られています(8月22日まで)。ご自身が感染しないためにも、また他人に感染させないためにも、そしてまた医療現場の逼迫を防ぐためにも、教会堂に集まる形での礼拝にこだわらず、インターネットの中継配信を利用したご在宅での礼拝など、それぞれの方が参加しやすい形で礼拝にご参加ください。教会では換気やマスク着用など感染予防に留意しながら礼拝をいたしますが、教会にいらっしゃる際には、ご自身の体調にご注意いただき、検温、手指消毒とマスク着用、お隣の方との間隔をあけた着席をお願いいたします。「週報」や「メッセージ(全文)」はホームページからダウンロードしていただくことができます。またご希望の方にはご自宅までお届けいたします。ご遠慮なくお知らせください。
- ・今夏も「部落解放青年ゼミナール」(主催:日本基督教団部落解放センター)が開催されます。今夏は、新型コロナウイルスの感染予防として、ZOOMを利用したオンラインでの開催となります。4回の連続学習会の後全大会が行われます。日程は8月の12(木)、13(金)、16(月)、20(金)、24(月)です。参加費は無料です。7月末日までに右のメールか、QRコードより、お申し込みください。



◎ 次週以降の行事予定

	会場	メッセージ	行事
8/1	久宝寺地区	水谷牧師	平和聖日・ユウカリスト
8/8		牛田牧師	
8/15	久宝まぶねこども園 (新園舎・教会堂)	岡嶋伝道師	
8/22		牛田牧師	おにぎり支援

第23回 部落解放青年ゼミナール
《 青年ゼミ オンライン 》

茨冠の主を讃美します。
いつも部落解放青年ゼミナールを覚え、支え、お祈りくださり、心から感謝いたします。毎年、多くの支えと祈りによって青年ゼミナールの開催が許され、多くの学びと、豊かな交わりの時が与えられています。昨年度は新型コロナウイルスの影響により、開催を断念いたしました。しかし、このような状況下であっても差別的な出来事が起こっている様子を様々な場面で見聞きします。今年の青年ゼミでは複数の学習会を通して「今年お越しく差別意識」を学びつつ、これから自分たちが部落差別とどのように向き合うかについて分かち合う場にしたいと思っています。2021年度の開催についても様々な議論を重ねておりますが、今回は安全性を考慮しオンラインにて開催することいたしました。
オンラインでの集会はなかなか難しいことかもしれません。今までにない形の青年ゼミとなります。そのため、創意工夫の上、多くの方に安心して参加して頂けるよう準備しております。長時間のオンライン集会は厳しと判断し、日にちを分けた連続学習会を行い、講師の方からそれぞれの場で起きている差別について「共に学ぶ」時間を設けました。そして最終日に、全体会にて青年ゼミとして大切にしている「参加者との分かち合い」をしっかり持ち、些細な疑問やそれぞれの想いを共有していくことで、新しい発見や学び、課題をそれぞれの場に持ち帰っていく。そのようにオンラインならではの「学び」と「分かち合い」を大切に青年ゼミナールにしたいと考えています。少しでも興味があって、部落差別問題について考えてみようと思った方は、ぜひこの青年ゼミナールに参加してください。それぞれの視点から共に学び、考え、分かち合っていくでしょう。そして私たちから、差別を乗り越える歩みを体現していきたいのです。差別されている人が解放され、差別している人が解放されるために。

第23回 部落解放青年ゼミナール
実行委員長 三浦 達

日程
連続学習会: 2021年8月12日, 13日, 16日, 20日 19時頃～
全体会: 2021年8月24日(火)

形式: Zoom ミーティング (参加費無料)
申し込みは6月~7月末日までに、右記の専用ページより
お申し込みください。下記のアドレスからもご案内いたします。
メール: blc.youthseminar@gmail.com



学習会講師: 「釜ヶ崎と差別」大谷隆夫さん(摂津東田教会牧師・関西労働者伝道委員会 専任)
※顔名は(仮) 「在日コリアン差別」金迅野さん(立教大学大学院キリスト教学研究科特任准教授)
「ネットと差別」松村元樹さん(公益財団法人反差別・人権研究所 常務理事)
「性別について」渡邊さゆりさん(マイノリティ宣教センター 共同主宰)

※この青年ゼミナールは学習会と全体会の全参加を前提としておりますので、お時間の許す限り各学習会と全体会を通してご参加ください。

主催 日本キリスト教団部落解放センター(部落解放青年ゼミナール実行委員会)

目的 ①部落差別問題を通して自分の生き方を考える
②部落差別問題の解決のために、自分に何が出来るかを考える
③聖書を学びながら部落解放を目指す
④新しい「出会い」をする